



彼は、言葉は少ないけれど、よく人を感動させます。毎朝必ず朝の運動をします。そして早く出勤してみんなに笑顔で元気を与えます。「疲れた？」と聞かれても、「いいえ」と笑って残業します。彼はまだ会社に入って長くはないけれど、毎月実家に仕送りしています。仕事はいつもまじめで、同僚の仕事もよく手伝います。壁を塗装して全身真っ白になった彼。「疲れた？」と聞いても、やはり「いいえ」と笑います。そんな彼から学ぶところは少なくありません。



彼は会社の行事にはすべて参加します。先日の富士通の運動会、彼はすべての種目にエントリーしました。人数制限の関係で出場は認められませんでした。その積極的な向上心はわたしたちの心を打ちました。彼の名前、それは李剛です。

上海合璧總務課同仁 李高燕

入社感想

はじめて兄から合璧について聞いたのは、南部の電子関連の会社で働いていたころでした。わたしにとって合璧の仕事のやり方や社員教育はたいへん魅力的で、わたしも合璧で働いてみたいと思いました。

その後、合璧に入社して四年。しかし入社当初のことは依然新鮮な記憶として残っています。会社の正門から工場に足を踏み入れたときの感じ。それはまるで花園を見るようでした。董事長のいう「花園のような工場」という言葉がぴったりで、とにかくわたしの見た中で最も美しい工場でした。

働きはじめてからは5S、朝の体操、改善提案、毎日のレポート提出などの活動を通して、会社に対する信頼は日増しに強くなりました。仕事で失敗したりどうすべきかわからなかったりしたとき、上司は優しく教えてくれます。それは温かい家族に囲まれているようです。また、ここでは仕事の経験や人生の道理など、学校では学べないことも学びました。そういう意味からすれば、合璧はわたしにとって学校でもあります。

こんなに素晴らしい生活環境、楽しい雰囲気、学ぶことの多い学習環境を与えてくださった董事長に感謝します。そして、これからもこの会社の一員として頑張っていきたいと思っています。

上海合璧生管課中級事務 余丹

感謝の心

情緒あふれる紙に感情を綴る筆でわたしの今の気持ちを記してみたいと思います。わたしの想い、魂、そして熱い感謝の心を。



朝早く会社に来て思うこと。それは、ここがこの五年間、毎日わたしを育ててくれた、もうひとつの我が家のような場所だということです。ここでわたしが最も感動したことは、専門知識など知りたいことがあれば、だれでも喜んで根気よく教えてくれたことです。これは部門を超えて行われます。まるでみんなが知識を共有しようとしているかのようです。

わたしはそんな会社に入社を勧めてくれた両親に感謝しています。そして多くのことを学ぶ機会を与えてくれた会社にも感謝しています。さらに、きょうまで育ててくれた林經理、いつも正しい方向に導いてくれた周副理と梁經理、ともに手を携えて仕事に頑張った同僚たち、異郷の地で仲良く接してくれた友達、そして失敗の中から強く生きることを教えてくれた苦難の道のり。すべてに対して感謝しています。

朝ともに出勤して夕方ともに帰宅、毎日の仕事ではお互いに学びあったり励ましあったり、長い月日の中でわたしたちは固い友情を築いてきました。忘年会の出し物を一生懸命練習したこともありました。これはずっと忘れられない思い出です。心の奥ですっと燃え続けています。それから、はじめて舞台上で自己紹介をしたときのことも覚えています。見知らぬ人たちの前で、わたしは本当に緊張しました。でも、そのときの見知らぬ顔も今では上司であり、友達であり、同僚であります。みなさんがいたからこそ、わたしの人生は寂しくありませんでした。たとえ涙しても、そぐそこに温かい肩がありました。みなさんがいたからこそ、わたしの人生は愛と思いやりと感謝の心に満ち溢れていました。だからわたしはこの場を借りて、わたしを支えてくれた合璧の仲間たち、わたしの人生で愛を与えてくれた人たち、すべてに感謝の心を捧げたいと思います。

上海合璧 品質課主任 汪巧



合璧流

不断地思考與行動
誠信規變創新卓越
創造價值共生共榮
感謝報恩回饋社會

出版社: 合璧文化基金會 發行人: 詹其力 編輯指導: 陳慶煜、詹杰文
總編: 王迎春、林生富 編輯委員: 吳桂喜、郭菲菲、李高燕 印刷: 上海隸禾印刷有限公司

2010/01
第1期 01月10日發行

産業と学問の融合、未来への挑戦～董事長の宜昌市機電工程学校訪問記

2009年11月18日 董事長が林經理、王迎春、吳桂喜、李高燕を率いて
湖北省宜昌市の機電工程学校を訪問

2009年11月18日、湖北省宜昌市の機電工程学校から招待を受けた詹其力董事長は林生富經理、王迎春、吳桂喜主任、李高燕を率いて同校を訪問、経営に関する公演を行いました。



梅校長の案内で校内を見学する董事長・左から梁科長、董事長、梅校長

空港に着いた一行を迎えてくれたのは同校の梁科長でした。そのあと車で学校へ、同校の梅校長自らの案内で学生たちの学習、生活、実習など、学校の中の風景を見学しました。この間、董事長は機械に触れたり質問したり、とても熱心でした。また、同行者も多くのことを体験し、学ぶことができました。

今回の訪問で特筆すべきは学校側が合璧に入社した卒業生の父兄と董事長の面会を企画したことです。同校の卒業生五人(周明、杜海、杜平、李鯉鵬、孟頤)の父兄がこのために車で2時間かけてやって来て、董事長と面会しました。そこで董事長と卒業生でいっしょに写した写真、卒業生が父兄に書いた感謝の手紙、四季折々の会社の写真が父兄に贈られました。さらに優秀な人材を送ってく

たことに対する感謝として、董事長から父兄に人民元と外貨のお礼も贈られました。このあと董事長から今後たくさんのお礼を送ってくださるといったユーモアあふれる話も聞かれるなど、面会は和やかな雰囲気の中で進行しました。

翌日、董事長の講演が行われました。当初は1500人収容の講堂を会場とする予定でしたが、映写設備の関係でマルチメディア教室に変更されました。講演は全部で2時間半、この間、董事長は水も飲まず、立ったまま話し続けました。

そんな姿に感動したかのように聴衆の学生たちはじっと話に聞き入り、途中トイレに席を外すものもいませんでした。そして惜しめない拍手の中で講演は進行して行きました。

続いて董事長が食事会を開きました。快適な環境のレストランで食事会は終始和やかな雰囲気でした。このとき話題となったのは董事長の講演についてで、中には董事長の物まねをする人が現れるなど大いに盛り上がりました。この中で董事長はもう一度学校と父兄に対して優秀な人材を送ってくれたことに感謝し、学校と父兄は合璧に対して素晴らしい環境と温かい思いやりの中で卒業生(わが子)を育ててくれていることに感謝しました。

今回の学校訪問は多くの感動を生み出しました。合璧と学校や父兄の間に良好な関係を築くことができたばかりか、部下を育てるよい機会にもなりました。これは董事長のいう「褌手褌脚也要帶出去(足手まといになっても連れて行かなければならない)」だと思っています。今回同伴した部下はもちろん、そのほかの部下たちもいつかこうした機会を今後自分も得られることが期待できるからです。帰りにわたしは強く思いました。こんなにいい会社において自分は必ず成長することができるだろうと。それは董事長のいう「会社は自然に利益が出せる」と本質的に同じ考えだと思っています。

宜昌機電工程学校の学生を前に講演をする董事長

